

教職支援室便り（10月号）

令和4年10月14日（金）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教職特別講座の実施について

昨年10月にスタートした、4年生との「教職特別講座」も、無事に終了しました。この間、178コマ（1コマ90分）の貴重な時間を、学生の皆さんと共有することができました。私にとって、かけがえのない時間でした。また学生の皆さんにとっても、更なる教職への思いを高めた、大切な時間であったと確信しています。

なお、先月号に引き続き、学生の皆さんの、第二次試験を終えての感想を紹介します。

<第二次試験を終えての感想>

二次試験を終えて今思うことは、特別講座を受講して本当に良かったということです。3年の10月から一次試験対策等をはじめ、確かに最初は他の授業との両立等で苦勞もしましたが、自分一人で勉強するよりも、はるかに効率よく進めることができましたし、周りの頑張っている友人を見ると、自分も頑張ろうという気持ちになれました。曾我先生も一人一人に本当に真剣に、丁寧に向き合ってくださいるので、どんどん自信をつけることができました。講座を通して、試験に必要な力はもちろんですが、教員として働いていく上で必要な、知識や力も得ることができたと思感しています。結果がどうであれ、悔いは残らないと思えるほど、力を出し切ることができました。

10月から始まり、気付けば一次試験が終わり、二次試験対策が始まりました。二次試験までの約1か月は、正直きついと思うこともありましたが、仲間や曾我先生のおかげで乗り越えることができたと思います。二次試験が終わった今、「やりきった」「楽しかった」という気持ちです。

特別講座は、教員採用試験のための対策はもちろんですが、来年から教員として働く上で必要な力を、身に付けることができたと思います。試験が終わって、特別講座がないと思うと寂しいです。これからも、よい教師になるために励んでいきたいと思っています。



さて10月に入り、新たに「教職特別講座」の実施を検討しています。これまで同様、次年度、教員採用選考試験を受験する皆さんの中で、受講希望があれば、講座を開設し、積極的な支援に努めていきたいと考えています。10月18日（火）には、「教職特別講座」のオリエンテーションを行う予定です。

なお、次頁に、「教職特別講座」の目的、演習内容、演習計画、留意事項等を掲載しています。

1 目的

- 教員採用選考試験（筆記試験・面接試験等）に関する演習を、多面的・多角的に行うことにより、受講者が試験合格に向けて、自己啓発を図りながら、教員になるための基本的な知識や技能等を習得するとともに、教員としての資質・能力を高めることができる。

2 演習内容

(1) 教職教養

① 教育法規

- ・日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則、地方公務員法、教育公務員特例法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、教育職員免許法、児童虐待の防止等に関する法律、発達障害者支援法、いじめ防止対策推進法、児童福祉法、児童の権利に関する条約、障害者基本法、障害者の権利に関する条約、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律、学校保健安全法、学校給食法、食育基本法、人権教育及び人権啓発の推進に関する法律、著作権法、学校図書館法 等

② 答申・通知・報告及び教育原理等

- ・教育課程、教育振興基本計画、学習指導要領、道徳教育、人権教育、インクルーシブ教育、特別支援教育、キャリア教育・職業教育、体罰、生徒指導提要、教員の資質・能力、いじめ・不登校問題、チームとしての学校、性同一性障害、コミュニティースクール、教育心理、教育史、学習評価、教員の働き方改革、情報教育 等

(2) 専門教養

- ・小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、各校種の専門的知識に関すること 等

(3) 面接等

- ・個人面接、集団面接、グループワーク、集団討論、場面指導、模擬授業等の演習
- ・小論文、受験願書、自己申告書、自己PR書、自己紹介書、調査書等の作成

3 演習計画

(1) 10月～1月

- ・教職教養を中心に、週1～2コマ演習を行う。

(2) 2月～7月中旬

- ・一次試験対策「上記2（1）（2）」を中心に、週2コマ演習を行う。

(3) 7月下旬～9月中旬

- ・二次試験対策「上記2（3）」を中心に、別途計画（夏季特別講座）により演習を行う。

4 留意事項等

- (1) 自己の目標をしっかりとつこと。課題意識をもつことが大切です。
- (2) 特別講座は、大切な授業の1コマで行います。その趣旨を理解し、正規の授業と同じ取組をお願いします。
- (3) 無届欠席については、厳に慎んでください。
- (4) 特別講座で提示された課題は、次回までに必ず取り組んでください。
- (5) 特別講座の演習だけではなく、自主的な取組も重要です。教職支援室には、各自自治体の過去の問題集もありますので、積極的に活用してください。
- (6) 受験する自治体についての情報は、各自細かく調べておくこと。本年度実施の一次試験、二次試験の傾向、内容、配点、倍率、加点等について、可能な限り調べておくこと。
- (7) 複数の自治体を受験することも可能です。事前に、熟考してください。
- (8) 英語力向上に努めてください。少しでも上級の資格をめざして、資格試験等に積極的に取り組んでください。

◇ 事前準備・・・教育小六法、生徒指導提要

前期教職支援室活用者数「延べ467名」

本年度、前期（9月末まで）の教職支援室の活用者数は、「延べ467名」でした。心から感謝いたします。

現在、コロナウィルス対策のために、電話やメール等での支援にも力を入れています。相談者の多くは学生の皆さんですが、中には、卒業生や学校現場の先生方もおられます。学習指導や生徒指導をはじめとする、学校現場の問題や課題は、年々増えているように感じます。今後も本学の「地域貢献」の方針を踏まえ、相談者の方々のニーズに応じて、幅広く支援に取り組んでいきたいと思っております。後期の活用も、どうぞよろしく願いいたします。



388の面接試問例の分析（整理）：その7

本年3月号から、これまで教職特別講座（旧：勉強会）で活用した、388の面接試問例の分析（整理）資料を掲載しています。今回は、先月号の「13学校教育全般に関すること、14服務規律に関すること」の続編として、「15コロナウィルス対策に関すること、16その他に関すること」について、388の試問例の中から試問を掲載します。

15 コロナウィルス対策に関すること

- 1 コロナ禍で、児童生徒に伝えたいことは何ですか。
- 2 コロナ禍での教員の職務として、どのようなことが増えたと思いますか。
- 3 コロナ禍での授業では、どのようなことに配慮する必要があると思いますか。
- 4 コロナ禍に関わるいじめが起きた場合、どのように対応しますか。
- 5 コロナ禍の生徒指導を、どのように進めていきますか。

16 その他に関すること

- 1 面接の練習は、どれくらいしましたか。
- 2 この会場に来るまでに、印象に残ったことはありましたか。
- 3 今回の試験の手ごたえはどうですか。
- 4 採用試験のために、特に準備してきたことは何ですか。
- 5 今日の面接を自己採点してください。
- 6 面接練習でどんなアドバイスを受けましたか。
- 7 願書（自己申告書等）の内容を1分で述べてください。
- 8 最近読んだ教育書は何ですか。
- 9 海外の出来事で、関心をもっていることは何ですか。
- 10 忘れられない恩師の言葉はありますか。（どんな言葉ですか。）

「グループワーク力」を考える：その2

宮崎県の教員採用選考試験では、本年度から第二次試験において、「グループワーク」が実施されました。全国的には、「グループワーク」を取り入れている自治体は少ないのですが、教員としての資質・能力を評価する上では、効果的な試験であると考えます。

そこで、先月号に引き続き、『「グループワーク力」を考える：その2』として、「グループワークで評価されないタイプ」について掲載します。

＜グループワークで評価されないタイプ＞

(1) 追従型・イエスオンリー型

- 自己の考えを述べることが少なく、他者の考えに従う。
- 協力的な姿勢の一方で、テーマに対する見通しをもった自己主張が少ない。

(2) 独断型・自信過剰型

- 他者の意見を聞きながらも、自己の主張を通そうとする。
- 顔や声の表情から、自信過剰な態度が見られる。

(3) 一点視線型・下向き視線型

- 一定の他者に偏って視線を向けるなど、その他の人への協同性に欠ける。
- 視線を下に向けるなど、他者に真正面から向き合おうとする態度に欠ける。

(4) 無表情型・小声型

- 笑顔が少なく、硬い表情に終始している。
- 適度な声量ではなく、声が聞き取りにくい。

道徳の教科化に思う！（シリーズ65）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。

今回は、「道徳科の授業における内面的自覚とは ～内面的自覚と『展開後段』の重要性～」をテーマに、その1として「道徳科の特質と『展開後段』の重要性」についてまとめました。

1 道徳科の特質 ※（ ）中学校

道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていくこと。

- ・道徳的価値について理解する。（価値理解、人間理解、他者理解）
- ・自己を見つめる。（自己理解・道徳的価値を自分との関わりの中で考える。）
- ・物事を（広い視野から）多面的・多角的に考える。
- ・自己（人間として）の生き方についての考えを深める。（内面的自覚）
- ・内面的資質としての道徳性を養う。

2 「展開後段」の重要性

「小学校・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」から改めて認識できることは、上記1の通り、道徳科の時間が、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質（道徳性）を、育成する時間であるということです。そのためには、道徳的価値を言葉として理解するのではなく、より高められた道徳的価値観に照らして、今までの自分の人間的な生き方、あるいは人間としての在り方はどうであったかを振り返るなど、自己を見つめる時間でなければなりません。その中核を担っているのが、「展開後段」です。これまで、この段階は「価値の一般化」、「価値の主体的自覚」、「価値の内面的自覚」の段階と言われてきました。これまでの生き方を振り返り、今の生き方を認め、これからの生き方へと広げていくなど、自己を見つめることが指導の意図とされています。「展開前段」において、教材中の主人公に共感しながら、自分との関わりの中で考えさせる発問が構成されることを前提に、「展開後段」では、道徳的価値の自覚を内面的に深める学習活動・内容が重要となります。

<下線部：内面的自覚の姿：例>

自分はどうして、そんなことをしたのだろう。
自分の心には、何か足りないものがあるのかな。
自分にも弱さがあるけど、主人公にも弱さがあるのかな。
何が主人公の心を強くしたのかな。
主人公に比べると、今までの自分は〇〇だったな。
〇〇（ねらいとする価値）の大切さに気付いた。（わかった。）
少しでも、主人公の心に近づきたい。

◇ 次回は、「道徳科の授業における内面的自覚とは ～内面的自覚と『展開後段』の重要性～」をテーマに、その2として「『展開後段』及び内面的自覚の重要性の認識と課題」、「内面的自覚の姿」について掲載する予定です。